

昨年 9 月からの社会経済状況の悪化に対して ライフリンクが取り組んできた自殺緊急対策

- ◆生きる支援の総合検索サイトの緊急開設
- ◆生きる支援策に関する緊急合同研修会の開催
(東京都福祉保健局と共催)
- ◆「自殺者急増の危機に立ち向かう」院内集会の開催
(自殺対策を考える議員有志の会と共催)
- ◆「自殺緊急対策に関する要望書(政府宛)」のとりまとめ
- ◆新聞やテレビなどを通じた社会への啓発

「生きる支援の総合検索サイト～ライフリンク DB」

緊急運用開始のお知らせ

自殺を考えている人の多くは、「死にたい」と「生きたい」の狭間でもがき苦しんでいます。しかし、「生きる手段」よりも「死ぬ手段」の方が簡単に見つけられてしまうのが日本社会の実情です。特にネットでは硫化水素の作り方など、「死ぬ手段」に関する情報があふれています。その一方で、実際には様々あるはずの「生きる支援策」に関する情報がなかなか見つけられません。（そもそも存在すら知られていない“支援策”が少なくないのです。）

そうした状況の中で、自殺を考えている人が「生きること」を選択できるように支援していこうというのが「生きる支援の総合検索サイト～ライフリンク DB(ディービー)」です。行政の縦割りや専門分野の壁によって散り散りになってしまっている様々な「生きるための支援策」を、不動産物件の検索サイトのように、簡単に見つけられるようにしています。利用者は、「自分が抱えている問題」と、「希望する相談の形態(面談か電話か/無料か有料か)」や「希望する相談地域」を選択するだけで、問題解決に必要な支援策・相談窓口をあらゆる分野の中から簡単に探すことができます。

しかも、これまで自殺対策を通して培ってきた経験を活かして、ハイリスク者向けに情報をパッケージ化する試みも行っています。「大切な家族を亡くした時」「犯罪被害にあった時」「死にたいと思っている時」「家族や友人が死にたいと言っている時」など、シチュエーションごとにどんな問題を抱えがちになるかを想定し、それぞれに対する支援策をパッケージとして提供できるように工夫してあるのです。これまでは施策者本位で「組織ごと・専門分野ごと」に分断されていた情報を、現場本位で「当事者が置かれているシチュエーションごと」に整理し直しているというわけです。

「生きる支援の総合検索サイト～ライフリンク DB」は、当初は来春運用開始の予定だったのですが、昨今の経済・社会状況を鑑みて、急きょ「いのちの日」である12月1日に緊急始動させることに決めました。今後増えてくることが予想される失業者や倒産事業者が、支援策にたどりつけなかったがために自殺へと追い込まれるような事態を少しでも減らしたいとの思いからです。

したがって、まだまだデータが万全とは言えません。まずは東京都内の情報に限った形で運用を始め、今後関係者みんなでサイトを育てながら、少しずつ地域を広げ、内容を充実させ、より使い勝手の良いサイトにしていきたいと考えている次第です。

つきましては、12月1日の運用開始に先立ちまして、報道関係者向けの実演デモを下記のスケジュールで行います。ぜひ取材・報道していただきますようお願いいたします。(映像取材も可能です。)

【日時】2008年11月29日(土) ①10:00～ ②19:00～ ③22:00～ (各1時間程度。内容は同じ)

【場所】ライフリンク事務所(千代田区富士見 2-3-1 信幸ビル 302 飯田橋徒歩 5分)

スペースに限りがありますので、できるだけ事前にお申し込みください。

NPO法人ライフリンク: 電話)03-3261-4934 メール)info@lifelink.or.jp

生きる支援の総合検索サイト～ライフリンクDB～ 【検索の仕組み】

1

トップページには、6つの【悩み】と4つの【緊急事態】が表示されている。例えば、その中から、【死にたい】にカーソルを合わせてクリック



2

【死にたい】をクリックすると、さらに具体的なキーワードが表示される。自分の悩みに一番近いもの、(例)【生活が苦しい】をクリック



生きる支援の総合検索サイト～ライフリンクDB～ 【検索の仕組み】

3

自分が選択した悩み、**「生活が苦しい」**に適した相談窓口が一覧で表示される。相談窓口の詳細情報が見たいときは、**「詳細」**をクリック

さらに、詳細な条件(例)**「土曜もしくは日曜もやっている」**、をつけて再検索することもできる

4

選択した相談機関の詳細情報が表示される。印刷したい場合は、右上の**「印刷」**をクリック。リンクしてあるホームページにも飛ぶこともできる

「東京の“生きる支援策” 徹底活用法を学ぶ」 緊急研修会（12/15）を開催します

いま、失業者や倒産件数の増加により、自殺に追い込まれる人が急増しかねない状況です。日本の自殺が急増に転じた98年3月、つまり北海道拓殖銀行や山一証券が破たんした年の決算期に、いまの状況があまりにも酷似しているのです。（添付資料あり）

そこで私たちは、自殺に追い込まれる人をひとりでも減らすために、機能不全に陥っている「社会のセーフティネット」を少しでも活性化させようと、「東京の“生きる支援策”の活用法について学ぶ緊急研修会」を東京都福祉保健局と共催することになりました。様々な現場で活動する行政の相談員や民間のボランティア、そのひとりひとりの「相談力」を向上させることで、地域全体の「生きる支援力」の底上げを図れればと考えています。

なお、緊急的に開催を決めた研修会ですが、すでに定員（100名）を超える申し込みが来ています。現場で活動する人たちの危機感の表れだと思います。ぜひ広く報道していただきますよう、お願い申し上げます。

【日時・場所】

第一回：12月15日（月）17:25～20:30 東京都庁第二本庁舎10階201会議室
第二回：12月23日（火・祝）13:00～17:00 日本財団2階会議室

【第一回の内容】・・・以下の支援策について、それぞれ20～25分程度で概要を説明する。

①低所得者への支援、②ネットカフェや漫画喫茶等で寝泊まりする就労者の相談支援、③就職チャレンジ支援事業、④若者の就労支援、⑤ひきこもり等の若者の支援、⑥多重債務問題への対応、⑦ひとり親家庭への支援、⑧遺族支援（わかちあいの会、奨学金、遺児の心のケア）、⑨「生きる支援の総合検索サイト～ライフリンクDB」(<http://lifelink-db.org>)など。（第二回の内容は現在検討中です。）

【問合せ】

NPO 法人ライフリンク（担当：清水） メール shimizu@lifelink.or.jp、電話 090-7815-7320

（補足：参加者への呼びかけ）

存在を知られていないだけで、使い勝手の良い「生きるための支援策」は、実はたくさんあります。

例えば、東京都が年間予算97億円をかけて今年8月にスタートさせた「生活安定化総合対策事業」。『利用者は、スキルアップを図るために職業訓練を無料で受けることができ、その上、受講中は最長で6ヶ月間、毎月15万円の生活費を支給してもらえる。さらに訓練修了後は就職先を有利な条件で紹介してもらうことができる（訓練修了者を採用した企業には60万円支給されるというインセンティブがついた形で。）』という非常に手厚い内容の支援事業です。（収入の面などで利用制限はありますが。）

こうした支援事業が様々なのに知られていない、活用されていないのは、裏を返せば、支援を必要としている人たちに、支援策に関する情報が十分に届いていないからです。情報提供する立場にある都の福祉事務所が、この支援策について知らなかったという笑えない話もあるくらいです。

私たちが行っている実態調査からは、「自殺した人の72%が、亡くなる前にどこかに相談に行っていた」というデータもあります。相談を受ける立場にある人は、相談者が生きる最後の望みをかけて相談に来ているのかも知れないという想像力が必要です。たった一度のそのチャンスに、情報を適切に提供できるかどうかで、相談者の人生を大きく変えてしまうことだって珍しくはないのです。

これから年末、年度末にかけて、みなさんが「いのち」の鍵を握る機会が増えることは間違いありません。この研修会が、「相談力」「生きる支援力」を高めていただく機会となれば幸いです。

報道関係各位

「緊急集会 “自殺者急増の危機”に立ち向かう」のご案内

最近「派遣切りや解雇にあった人が自殺(未遂)した」といった声が、自殺対策の現場から多く聞こえるようになってきました。振り返ってみれば、自殺者が急増に転じたのも、きっかけは倒産件数や失業者の急増です。(山一や拓銀が倒産した年の年度末、つまり97年の決算期である「98年3月」に日本の自殺は急増し始めています。)

社会として、迫りくる“自殺者急増の危機”にどう立ち向かえばいいのか。年末・年度末にかけて、どういった具体策を講じていけばいいのか。明日、全国各地の自殺対策関係者を一堂に集めて、下記の要領で「緊急集会」を開催いたします。広く報道していただきますよう、お願い申し上げます。

日 時: 2008年12月25日(木) 13:00~15:00(受付は12:30~)
場 所: 参議院議員会館 第1会議室
内 容: 自殺対策の現場から緊急報告、対策推進に向けた「緊急決議」の採択など
主 催: 自殺対策を考える議員有志の会、NPO法人ライフリンク
参加者: 国会議員、地方議員、全国各地で自殺対策に取り組む民間団体、医療関係者、司法関係者、教育関係者、自死遺族(遺児)、宗教関係者、報道関係者など(約100名)

【次第】

時間(予定)	項目	内容
1300	主催者あいさつ	▼尾辻秀久「有志の会」会長 あいさつ
1315	対策現場からの 緊急報告	▼自殺のハイリスク地でいま何が起きているのか ・福井・東尋坊(自殺の名所)から ・秋田(自殺率全国一)から
	自殺問題の構造的背景	▼「3つの数字で読み解く日本の自殺実態」 ▼年間自殺者3万人「10年連続」の意味
	現行対策の問題点	▼戦略欠如、実態不明、縦割りや専門分野の壁
1405	「議員有志の会」の 取り組み	▼これまでの歩み紹介 ▼野田大臣に提出した要望書について
	自由討議	▼議員と民間団体による討議
1445	まとめ	▼「自殺緊急対策」決議の採択(全国26の民間団体が賛同)

【問合せ・取材申込み】

NPO法人 自殺対策支援センター ライフリンク(担当:清水)まで
電話:090-7815-7320、メール:info@lifelink.or.jp

自殺緊急対策に関する要望書(5項目)

1、自殺実態の緊急公表

毎月の自殺者数を、翌月の早い段階で公表すること。社会全体に警鐘を鳴らし、迅速に具体的な対策を実施していくため。

自殺者数が5カ月後に公表されたところで、「時すでに遅し」である。予防的な取り組みを行うためには、毎月の「変化」を迅速かつ的確に把握する必要がある。

2、自殺ハイリスク者(群)への緊急支援策の実施

自殺実態から、それぞれの地域での職業や性別、自殺の要因などを分析し、対象を絞り込んだ上で、緊急的かつ効果的な対策を実施すること。「自殺実態白書 2008」から見えてきた自殺の危機経路(プロセス)を参考にすることで、倒産や失業から連鎖が想定される要因への対策を重点的に行うこと。

3、行き詰まった時のシェルター(緊急避難場所)の開設

仕事も住居も失って行き詰まった時に、家族と一緒に駆け込めるシェルター(緊急避難場所)を、各都道府県に開設すること。特に、失業や倒産などにより自殺のリスクを抱えた男性が「社会的に休息できる場所」がなく、男性が家族と一緒に駆け込めるシェルターが必要とされている。

4、緊急相談窓口の開設

「もう生きられない。死ぬしかない」といった状況に追い込まれた人たちに対して、包括的な支援をワンストップで行える緊急相談窓口を全国の市区町村に開設すること。切迫した状況に追いやられている人ほど自分を見失い、どういった問題で悩んでいるのかを把握できない傾向にある。そうした人たちを無条件で受け止め、様々な関係者と連携しながら包括的な支援を行う窓口が必要である。

また、自殺のハイリスク地(自殺の名所等)における水際対策(相談所の設置、周辺の見守り、相談所案内看板の設置等)の強化を図ること。

5、「自殺対策コーディネータ」の緊急育成

地域の相談窓口(行政・民間を問わず)を後方から支援する「自殺対策コーディネータ」を、各都道府県に数名ずつ緊急育成すること。行政の縦割りや専門分野の壁に阻まれて散在してしまっている、様々な分野の支援策や相談窓口に関する地域の情報に精通した人材を育成することで、自殺対策関係者の連携を的確かつ確実なものとしていくため。

野田大臣への「自殺緊急対策に関する要望書」への賛同団体

- NPO法人 蜘蛛の糸(秋田)
- 心といのちを考える会(秋田)
- 秋田グリーンケア研究会(秋田)
- ふれあいのWA(秋田)
- H・F・C和絆(秋田)
- 自殺予防 秋田心のネットワーク(秋田)
- 仙台グリーンケア研究会(宮城)
- 福島自死遺族ケアを考える会 れんげの会(福島)
- NPO法人 国際ビフレンダース 東京自殺防止センター(東京)
- 全国自死遺族総合支援センター(東京)
- 自殺対策に取り組む僧侶の会(東京)
- NPO法人 心に響く文集・編集局(福井)
- 凧の会おうみ(滋賀)
- こころのカフェ きょうと(京都)
- NPO法人 国際ビフレンダース 大阪自殺防止センター(大阪)
- 多重債務による自死をなくす会(兵庫)
- ビッグフット(佐賀)
- NPO法人 自死遺族支援ネットワークRe(長崎)
- NPO法人 国際ビフレンダース 宮崎自殺防止センター(宮崎)
- NPO法人 いじめ対策プロジェクト(鹿児島)
- 日本司法書士会連合会(全国)
- 日本いのちの電話連盟(全国)
- 働くもののいのちと健康を守る全国センター(全国)
- 全国クレジット・サラ金被害者連絡協議会(全国)
- 社団法人 全日本断酒連盟(全国)
- NPO法人 自殺対策支援センター ライフリンク(東京)